



史跡宇治川大閘堰跡保存整備フォーラム2016

**開催日時** 2016年1月30日(土)

13:00 ~ 16:30

**開催場所** 宇治市生涯学習センター 第1ホール





### ～プログラム～

- |             |                 |                    |
|-------------|-----------------|--------------------|
| 12:30～      | 受付              |                    |
| 13:00       | 開会              |                    |
| 13:00～13:20 | 文化財感想文コンクール     |                    |
| 13:20～13:30 | 趣旨説明            | 歴史まちづくり推進課         |
| 13:30～13:50 | 発掘調査成果報告        | 歴史まちづくり推進課         |
| 13:50～15:20 | 講演「治水技術の発展と太閤堤」 |                    |
|             |                 | 大阪府立狭山池博物館 館長 工楽善通 |
| 15:20～15:30 | 休憩              |                    |
| 15:30～16:20 | ディスカッション        |                    |
| 16:30       | 閉会              |                    |

# 治水技術の発展と太閤堤

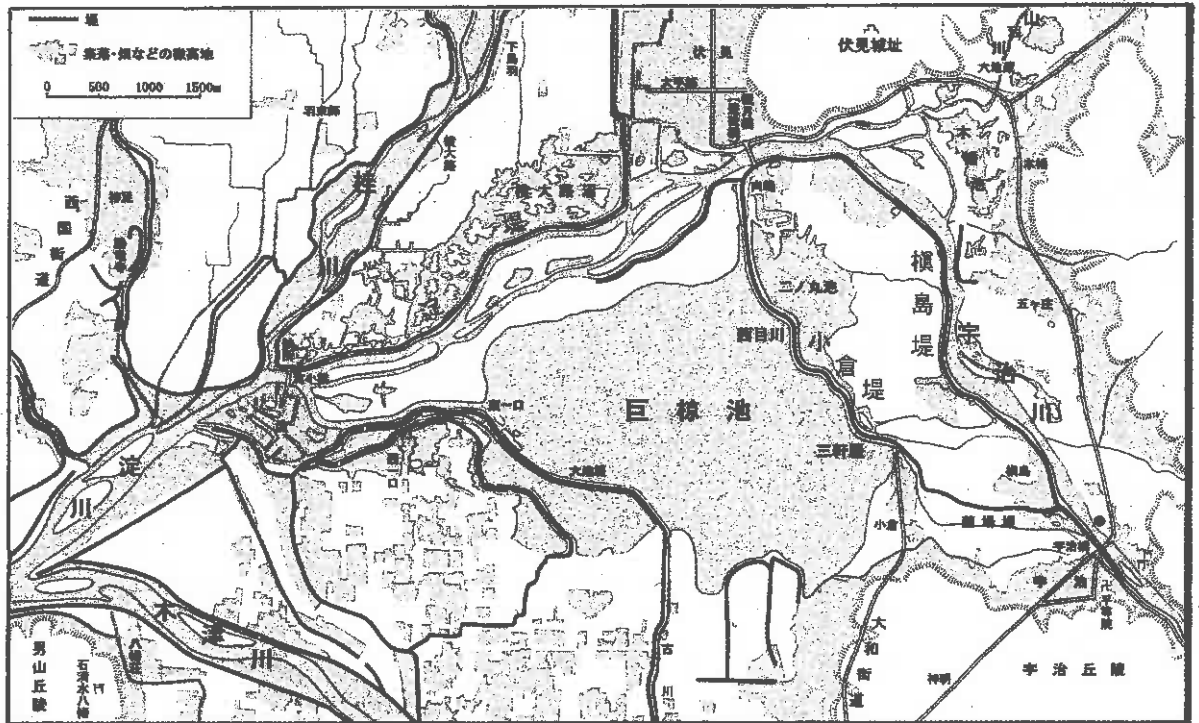
大阪府立狭山池博物館長

工楽 善通

2015.1.30

1. 2007年夏 宇治川右岸で「太閤堤」の遺構を発見！
2. 治水と利水のはじまり
  - ・ 川の流れを制御する
  - ・ 用水として活用する
3. 治水技術の発展
4. さまざまな治水遺跡
5. 太閤堤築堤の意義

巨椋池周辺の新設堤



『日本書記』 崇神天皇六十二年

六十二年の秋七月の乙卯の朔丙辰に、詔して曰はく、「農は天下の大きな本なり。民の待みて生くる所なり。今、河内の狭山の埴田水少し。是を以て、其の國の百姓、農の事に怠る。其れ多に池溝を開りて、民の業を寛めよ」とのたまふ。

冬十月に、依網池を造る。

『日本書記』 仁徳天皇十二年

冬十月に、大溝を山背の栗隈縣に掘りて田に潤く。是を以て、其の百姓、毎に年豊。

『日本書記』 仁徳天皇十一年

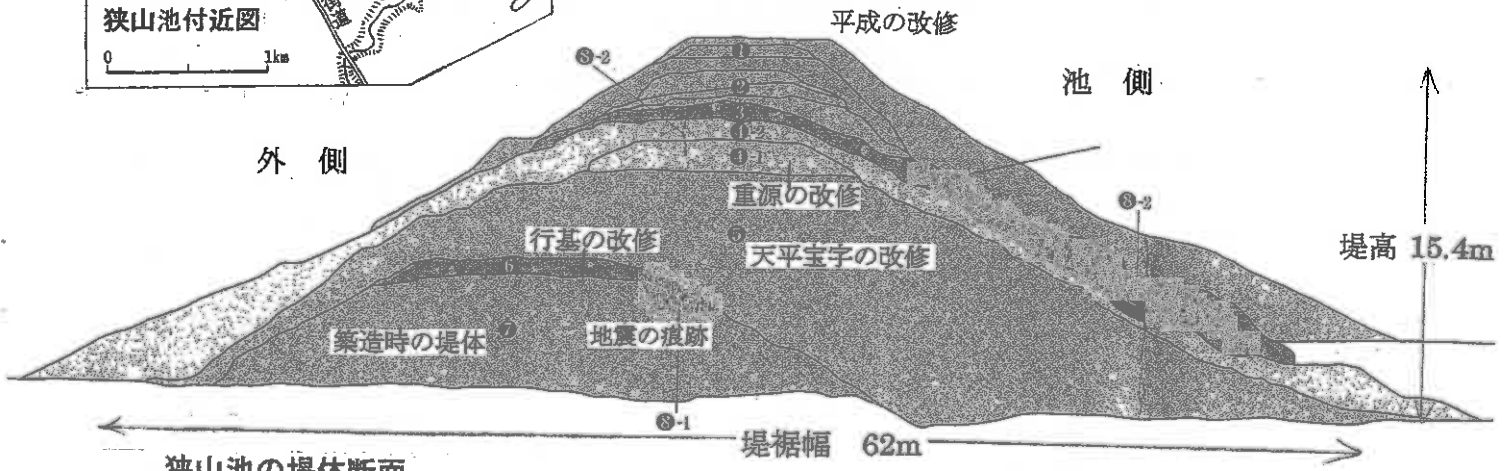
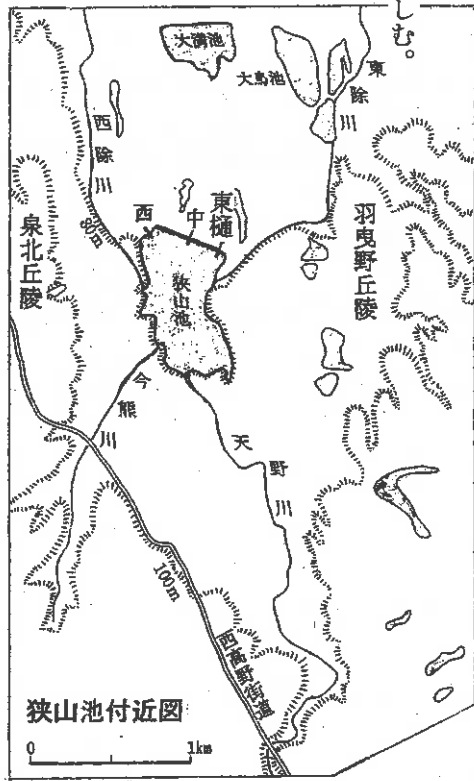
冬十月に、宮の北の郊原を掘りて、南の水を引きて西の海に入る。因りて其の水を號けて堀江と曰ふ。又將に北の河の澇を防かむとして、茨田堤を築く。是の時に、兩處の築かば乃ち壞れて塞ぎ難き有り。時に天皇、夢みたまはく、神有しまして誨

『続日本記』 天平宝字六年四月

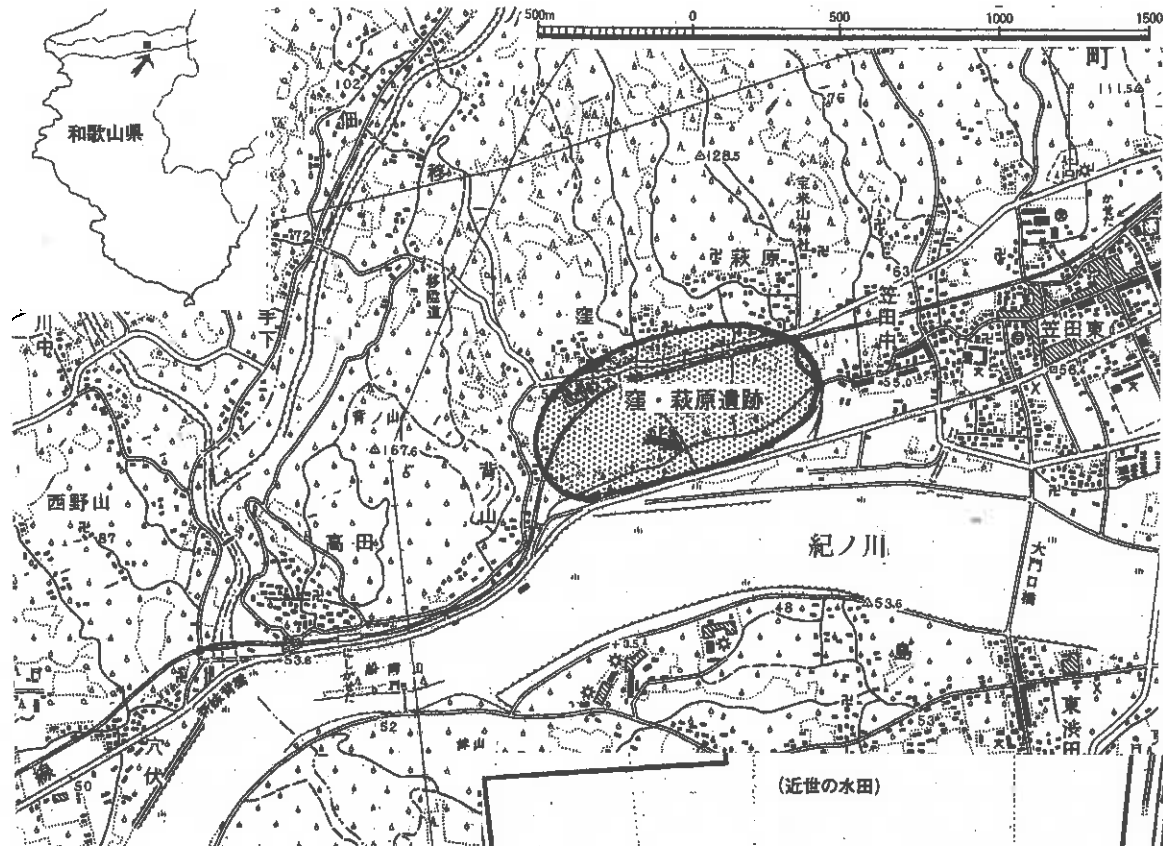
○丁巳、河内國の狭山池の隄決す。単功八万三千人を以て修め造らしむ。

『続日本記』 天平宝字六年六月

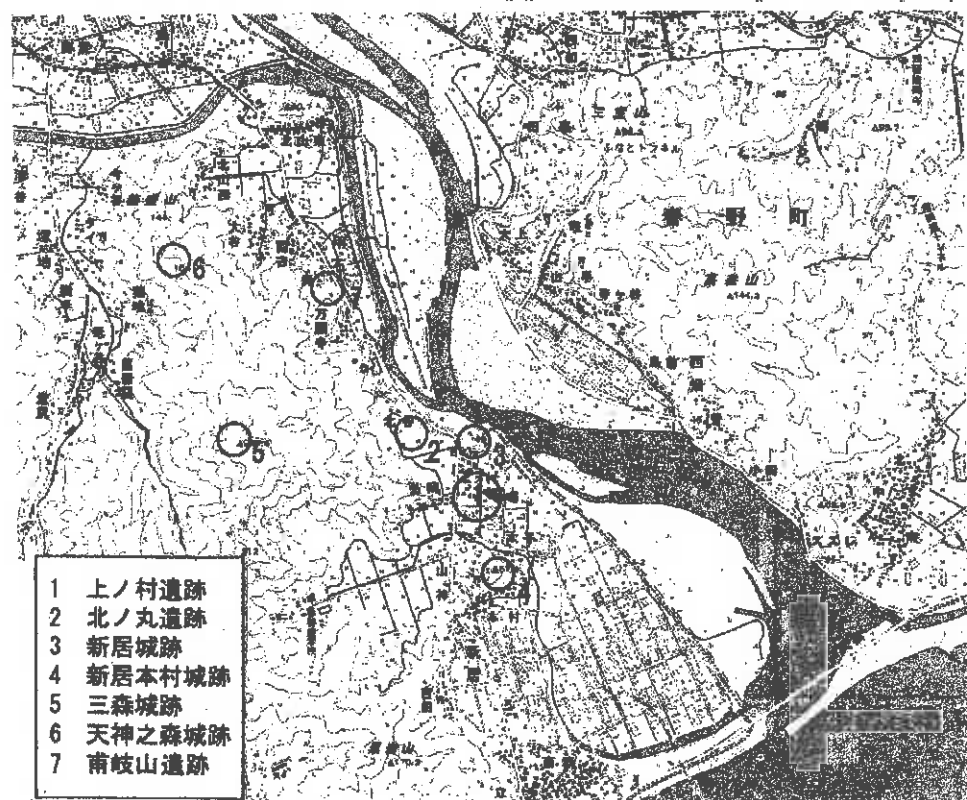
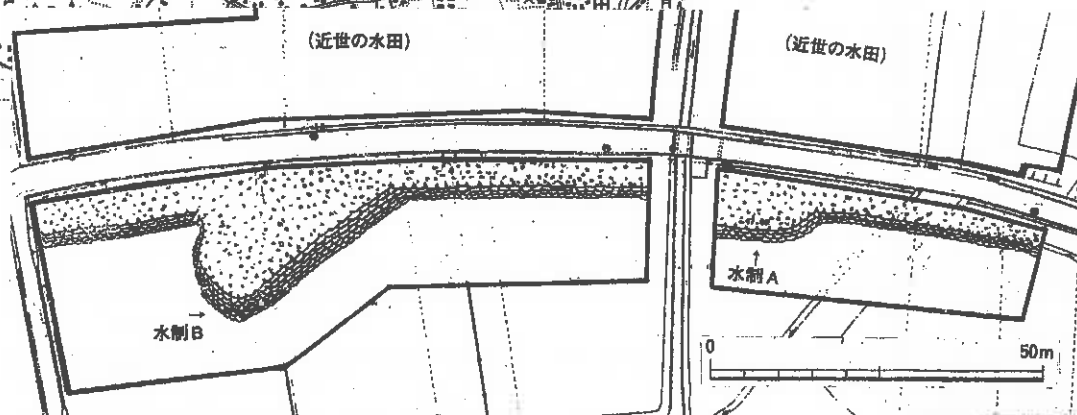
○戊辰、河内國長瀬の隄決す。単功二万二千二百餘人を發して修め造らしむ。



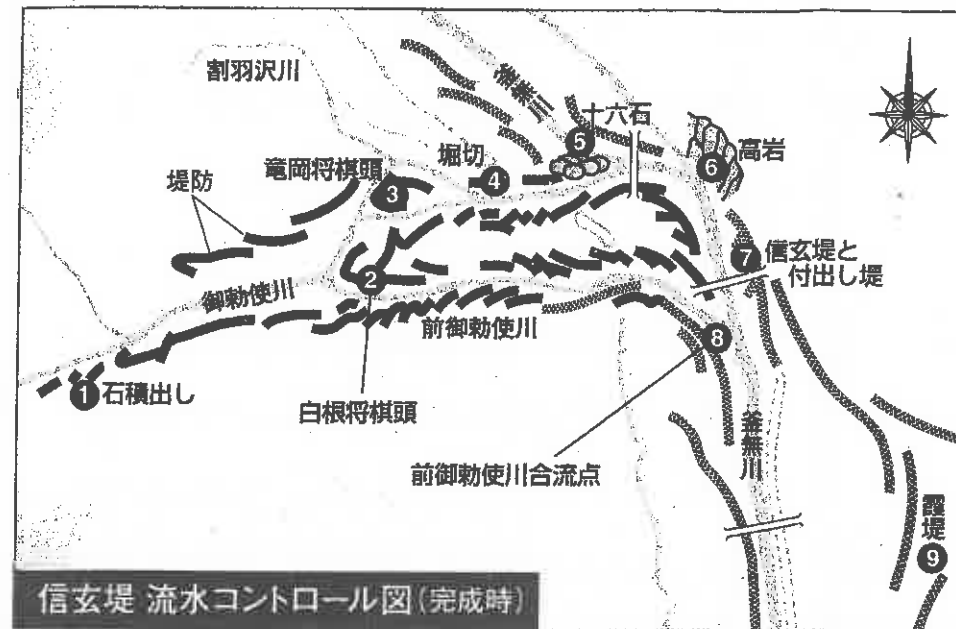
狭山池の堤体断面  
—土層の積み重なり



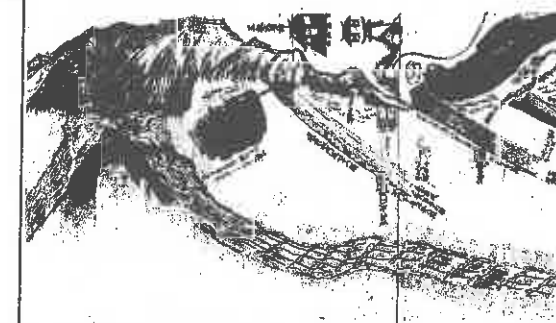
窪・萩原遺跡位置図



高知県 波介川河口導流事業 上ノ村遺跡



信玄堤 流水コントロール図(完成時)



信玄堤図  
高岩の役割など、堤の仕組みを表した図  
(甲斐市・保坂達氏所蔵)

- ① 御勅使川ぞいに「石積出し」を並べ、流れを安定させて北側に向ける。
- ② 「白根将棋頭」で流路を二分してエネルギーを減らす。
- ③ 「竜岡将棋頭」で再び分流させ、割羽沢川に合流させる。
- ④ 竜岡台地を掘り下げ、「堀切」に誘導。
- ⑤ 釜無川との合流点に「十六石」を積み上げ、水流を高岩へ。
- ⑥ 釜無川と合流した水を「高岩」にぶつけ、水勢を弱める。
- ⑦ 「信玄堤」と「付出し堤」で、エネルギーをさらに減らす。
- ⑧ 高岩から跳ね返る釜無川の水勢を前御勅使川にぶつけて相殺する。
- ⑨ 「霞堤」というぶつ切り堤防を設け、流量が増えたときに水を一時的に氾濫させ、甲府盆地の壊滅的な洪水を防止する。



井澤弥惣兵衛為永

見沼新田開全指導者 その人と事績 青木義信



大畑才蔵 (1642~1720)

井澤弥惣兵衛為永 (1663~1738)

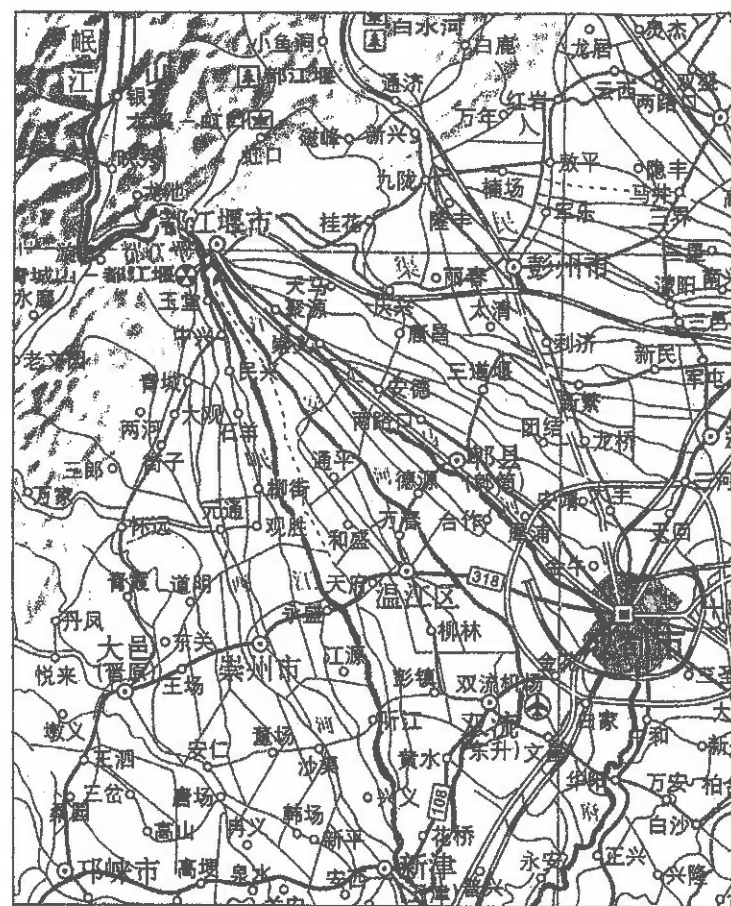
紀州流 井澤 大畑  
伊奈流 関東流 ) 伊奈氏

中国・四川省都江堰

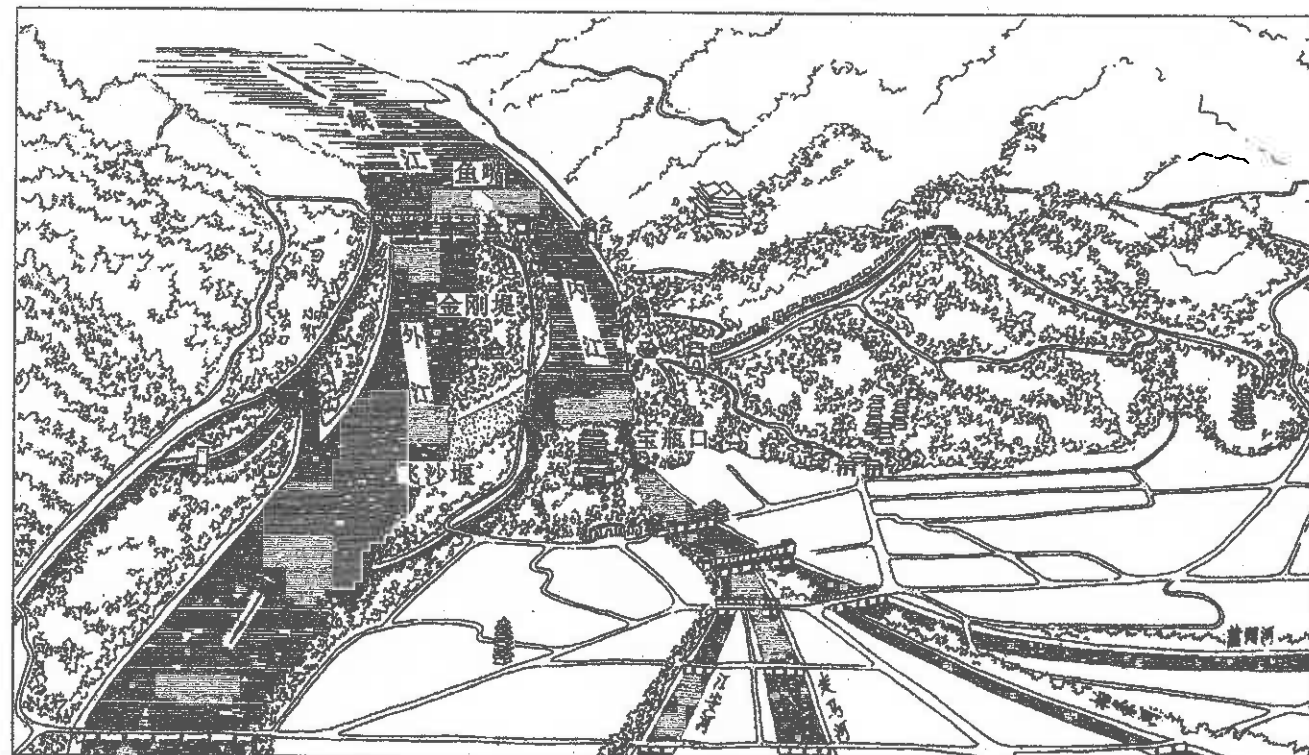
都江堰は、秦の時代（紀元前二二一〜二〇六年）に築造された水利施設である。当時の蜀の郡守・李冰（りひょう）が創建者で、その後の歴代の補修工事によって完全なものになった。



都江堰の築造によって、岷江の氾濫水害を治めることができたばかりか、成都の大平野に岷江の水を引くことができるようになった。そして地域に豊かな恵みをもたらした。後の秦の天下統一に大きく貢献したといわれている。李冰は、現代の河川計画にも通じる「深淘低作堰（川底を深く掘り堤防は低く造る）」という治水の奥義を編み出した。



都江堰位置図



都江堰風景図（1992年に世界遺産登録）

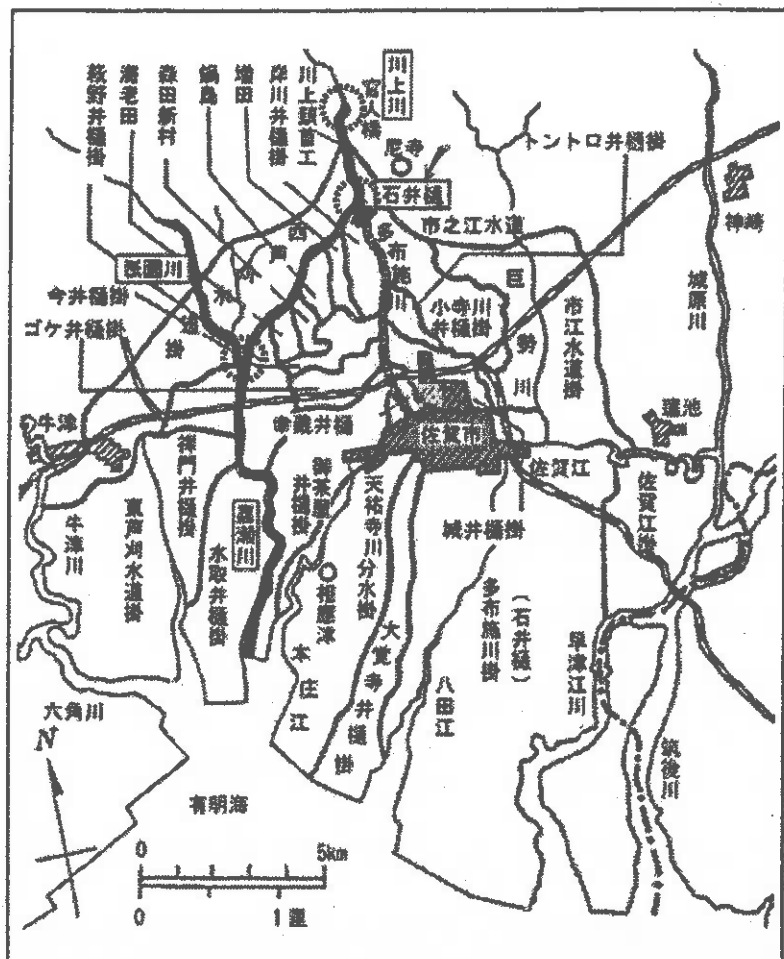
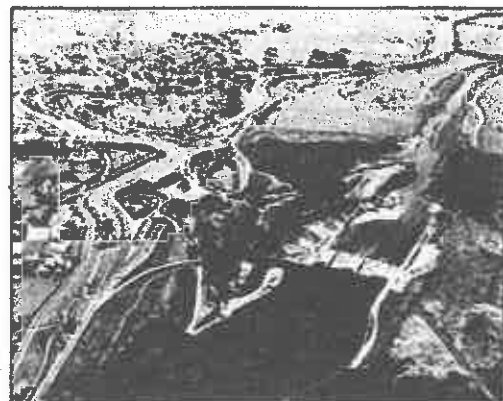


図-1 嘉瀬川水系図（宮地米蔵監修『佐賀平野の水と土-成富兵庫の水利事業-』に加筆）



象の鼻つけ根の野越より天狗の鼻を見る  
野越は象の鼻より1.5m低く、鼻先端部から流入する土砂を止める。



復元された大井手堰  
戸立と野越からなり洪水を調節する。

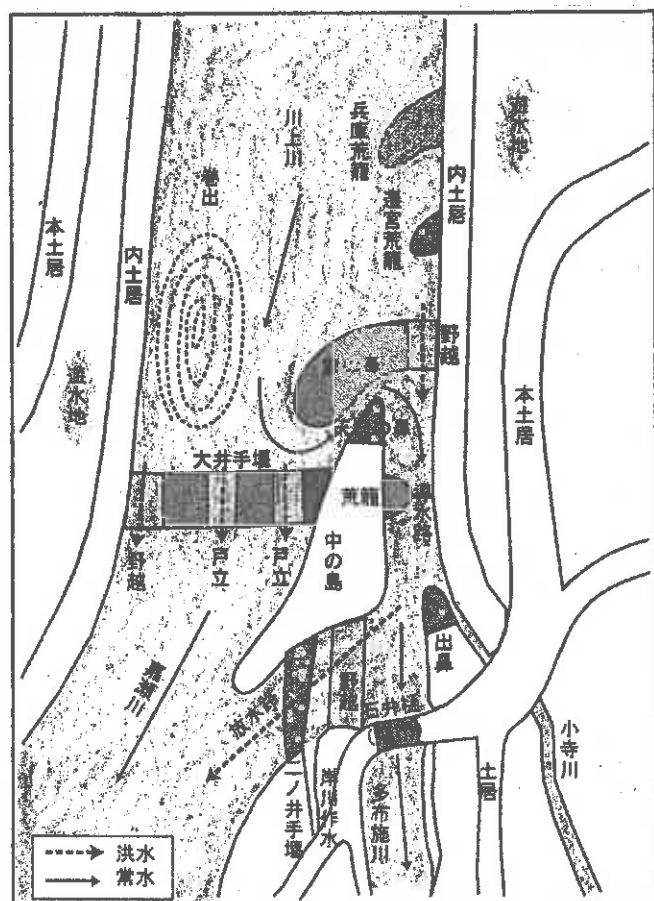


図-3 石井樋に配置された施設群

# 歴史公園の整備

太閤堤は、伏見を中心とした新たな交通網をつくりだただけでなく、貴族の別業が営まれた平安貴族のまちから、現在のお茶のまちにつながる、おおきなターニングポイントになりました。

宇治市は、史跡宇治川太閤堤跡を、太閤堤だけでなく宇治の歴史・文化・お茶について総合的に情報発信する施設として、整備をします。

## ・史跡ゾーンの整備

太閤堤を再現し、築造技術やその壮大さ、歴史的意義を実感できる整備をします。

### 安土桃山期の遺構再現展示

築堤され機能している段階の遺構再現展示。発掘された状態を型取り等により整備し、当時の迫力ある治水遺構を再現展示します。



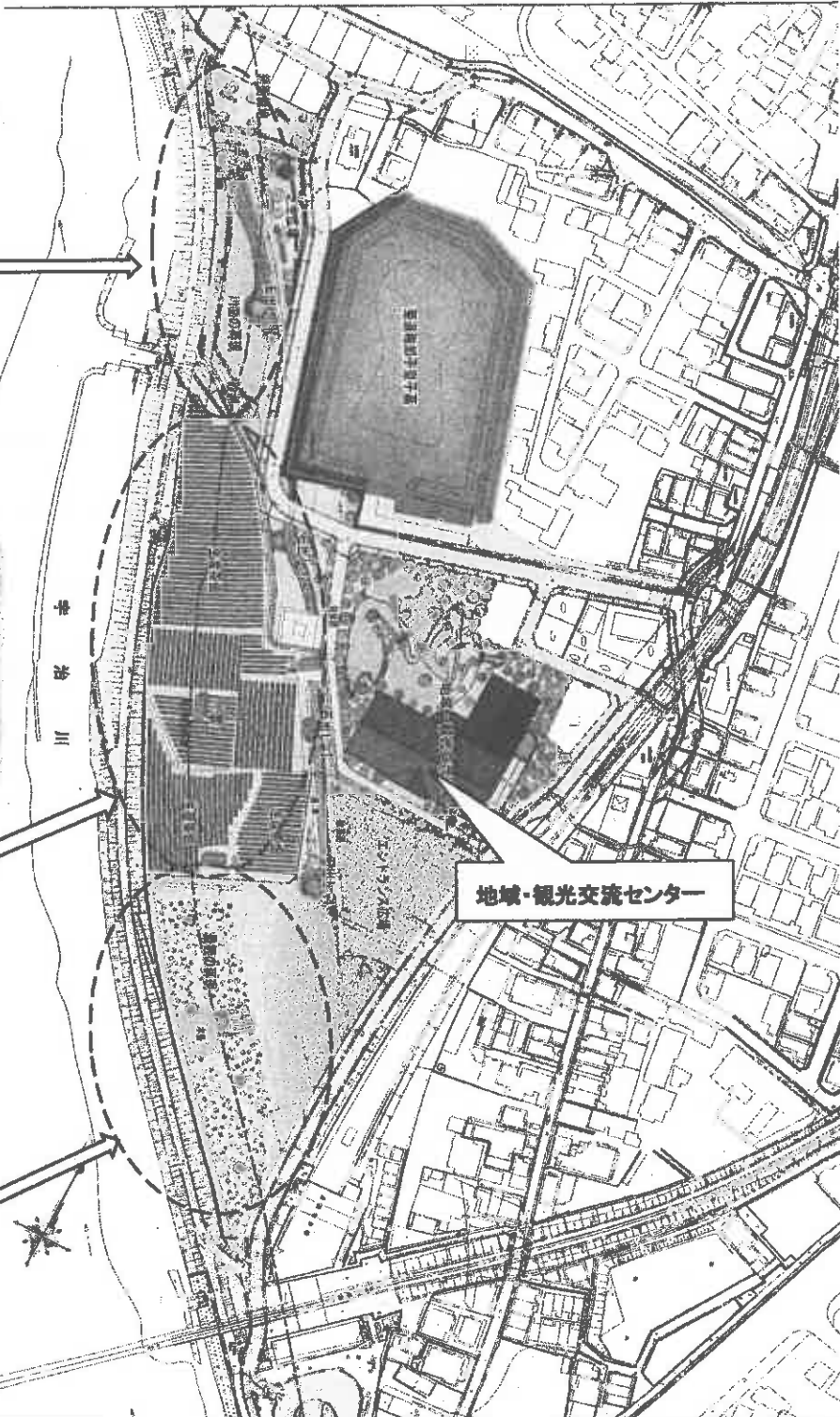
Aゾーンの整備イメージ

### 現代の茶園

太閤堤の築堤により形成された砂州に営まれた茶園。そこに現在も営まれている茶園を大切にします。

### 江戸時代の景観の再現展示

江戸時代に、太閤堤の護岸が砂州に埋まり、茶園が営まれるようになる当時の景観を再現します。



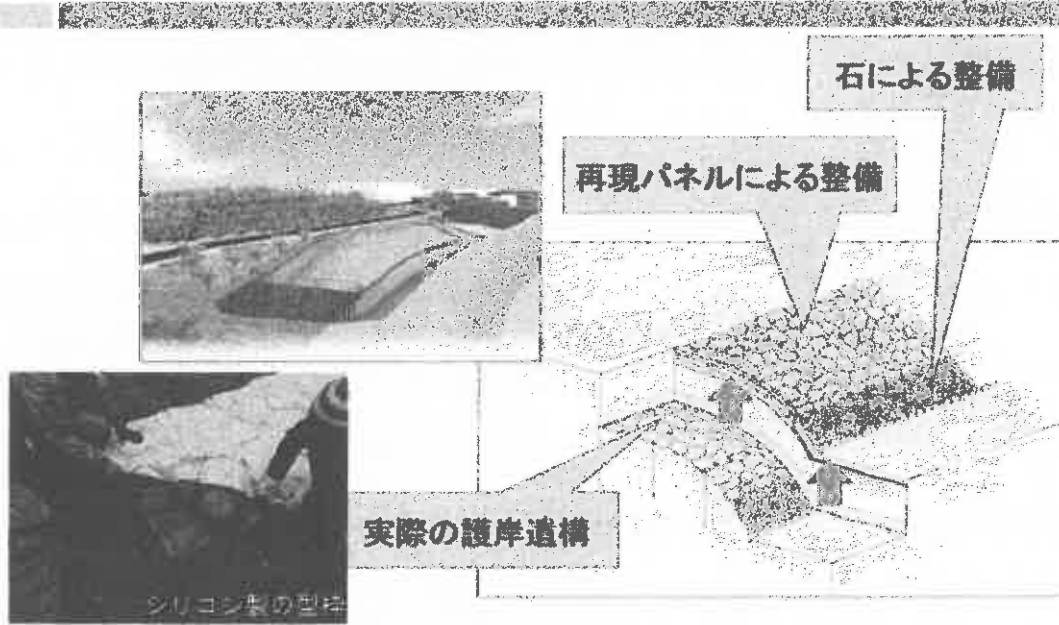
地域・観光交流センター

※この図は土地利用を示したものであり、土地所有者等との協議が完了したものではありません。  
※上記は整備イメージであり、詳細なデザイン等は今後検討します。

# 史跡の整備 太閤堤とその歴史を体感できる公園にします。

## 太閤堤の再現

秀吉がつくった護岸施設を最新の技術でそっくりそのまま再現！！



## 砂に埋もれていく太閤堤と

## 砂州に営まれた茶園の景観再現



伝統的な株植えの茶園。もこもことしっかりとしたボリュームのある茶株の連なりが美しい。



明治中頃の宇治川畔の茶園。見事な株植え茶園



整然とした畝状の茶畑は機械化の所産です



